

北京マラソン体験記

北京事務所

2014 年 10 月 19 日(日)午前 8 時。深刻な大気汚染に見舞われた北京でしたが、天安門広場は多くのランナーでごった返していました。1981 年から開催されている北京マラソンは今年で 34 年目を迎え、今年の参加者は約 3 万人を数えました。

天安門の前をスタートし、車のいない長安街を走る経験は二度と味わえないと思い、私もハーフマラソンにチャレンジすることにしました。今回、この参加体験についてご紹介します。

申し込みで四苦八苦

インターネットで申し込みができると聞き、慣れないネット申し込みに挑戦しました。言語は中国語と英語でしたが、外国人は全て英語のページに案内されるようです。氏名、住所等を入力するだけかと思いきや、「マラソンは死に至る危険があることを知っているか」に始まり、「Q. 靴ひもがほどけた場合はどうするか。－ ①すぐにしゃがんで結び直す。②ゆっくり路肩により、結び直す。」といったマナーを問う問題まで、十数問の問題を解かなければなりません。間違えたら参加できないわけではないでしょうが、これら全てを入力しても参加できるとは限らず、「申請項目を審査してから、大会事務局から連絡する」という流れになっていました。

これらの質問事項は、昨年まではなかったようです。というのも、今年から 10 キロ以下の健康マラソンがなくなり、フルとハーフのみの登録が可能でした。例年の参加者からは、「冷やかしてお断り」「大会をスムーズに運営したい」という事務局の意向ではないか、という意見が聞かれました。

料金は、中国籍と外国籍では異なり、フルマラソン中国籍 200 元 (3,600 円)、外国籍 100 ドル (11,200 円)、ハーフマラソン中国籍 160 元 (2,880 円)、外国籍 80 ドル (8,960 円) と、かなりの差がありました。また、国籍欄にある数十カ国の国名の中に、「Japan」はありませんでした。意図的に排除されていたのか不明であり、「その他」を選べば良いだけとはいえ、今の日中関係がここにも影響しているのか、と参加を希望した多くの日本人が考えたことでしょう。

実は、これら正式ルートでの申込みとは別に、非公式の特別ルートで申し込む人もいます。当日、男性なのに女性用ゼッケンをつけている人や、外国人なのに中国人名のゼッケンをつけている人を見かけました。ただし、この非公式ルートでさえも、今年は登録が難しいらしく、北京マラソンも国際大会として成長しているという気がしました。

深刻な大気汚染！マラソンよりAPEC！！

北京マラソンの様子は、日本でも報道されており、ご存知の方もいるかもしれませんが、参加者の多くは「中国が国際社会にアピールするため、マラソン当日は空気が良い」と信じていましたが、今年に限っては違いました。PM2.5 の濃度が日本の環境基準の 10 倍に当たる 350 マイクログラムを超え、すぐ近くの建物も霞んで見える中、マスクを着用して走るランナーの姿も多く見られました。微博(中国版 LINE)では「健康を害するために走るのか」、「3 万人の空気清浄機だ」という書き込みもあり、こういった中でも中止しない運営事務局への批判がなされていました。

この深刻な大気汚染は、11 月 7 日～11 日に北京で開かれる APEC とも無関係ではないようです。APEC 期間中の大気汚染を避けるため、中国政府は、10 月 21 日から北京市、河北省などの周辺地域の一部工場に操業停止を指示していました。その影響は大きく、各工場はこれに合わせ一斉に生産を前倒したため、北京マラソン直前には、生産が山場を迎えていたのです。また、会期中は車両規制が多く行われるため、事前に資材を運ぶトラックも多く、一時的に車両数も増えていました。



霞む天安門



マスクを着用して走る参加者

あたたかい沿道の応援が走る力に

残念ながら、最大の関心事が大気汚染になってしまった本大会ですが、選手の大半は空気のことなど気にしない様子で、楽しんで走っていました。

天安門、人民大会堂、国家戯劇院(オペラハウス)、中南海(政治の中心地)などの有名施設を見ながら、またコスプレした参加者の写真を撮りながら、普段なら走ることなどできない長安街を進みました。

出発地点の天安門前こそ、軍関係者が物々しい警備をしていましたが、そこを過ぎれば、市民の皆さんの応援が続いていました。「^{じゃーよー}加油(“がんばれ”の意)」というあたたかい声援は、言葉の違いこそあれ、日本と大差ないものでした。見知らぬ参加者同士で写真を撮り合ったり、沿道の市民とハイタッチをして走ったりする経験は、何より感動的な思い出となりました。

全く練習をせず、無謀にもハーフマラソンに臨んだ私は、収容車を気にしながらの走りとなりましたが、沿道のあたたかい応援のおかげで、何とか完走をすることができました。



『北京マラソン頑張れ』のメッセージ



沿道で応援する市民

さいごに

昨年までであれば、スタート前の混乱、トイレ不足、給水所の少なさが問題となり、擲擻されていました。しかし、今年は大きな混乱もなく、スタート地点の安全検査も丁寧かつスムーズ。トイレ、給水、収容車すら十分な量が確保されていました。外国人でも困るようなこともなく、国際大会だと胸を張って言えるものだったように思います。

一方、日本の報道は「大気汚染」一辺倒でした。私が受けたインタビューも、「大気汚染で辛かった」と誘導したいという雰囲気がありありとしていました。

確かに、大気汚染はひどいものでした。しかし、実際には「日中友好」をテーマとしてコスプレした参加者もあり、日中の市民交流がされていたのも事実です。そういった交流が一切取り上げられないのは、国際交流を担当する者として非常に残念な思いがします。

北京マラソンから数日後、風が吹くと、嘘のように青空が広がりました。大気汚染だけでなく、中国の姿、中国人との交流にも目を向けて欲しいと願う日々です。

(桑本所長補佐 島根県派遣)

注1：1元=18円、1ドル=112円で計算